

# 2023年度 上期決算説明資料

対象期間：2023.4.1-9.30

2023年11月9日

# 1. 2023年度 上期総括

# 2. 2023年度 下期・通期見通し

代表取締役社長 CEO 川村 和夫

# 3. 医薬品セグメントの持続的な成長に向けて

取締役執行役員 COO（医薬品セグメント） 小林 大吉郎

# 1. 2023年度 上期総括

## 2023年度 上期連結決算のハイライト

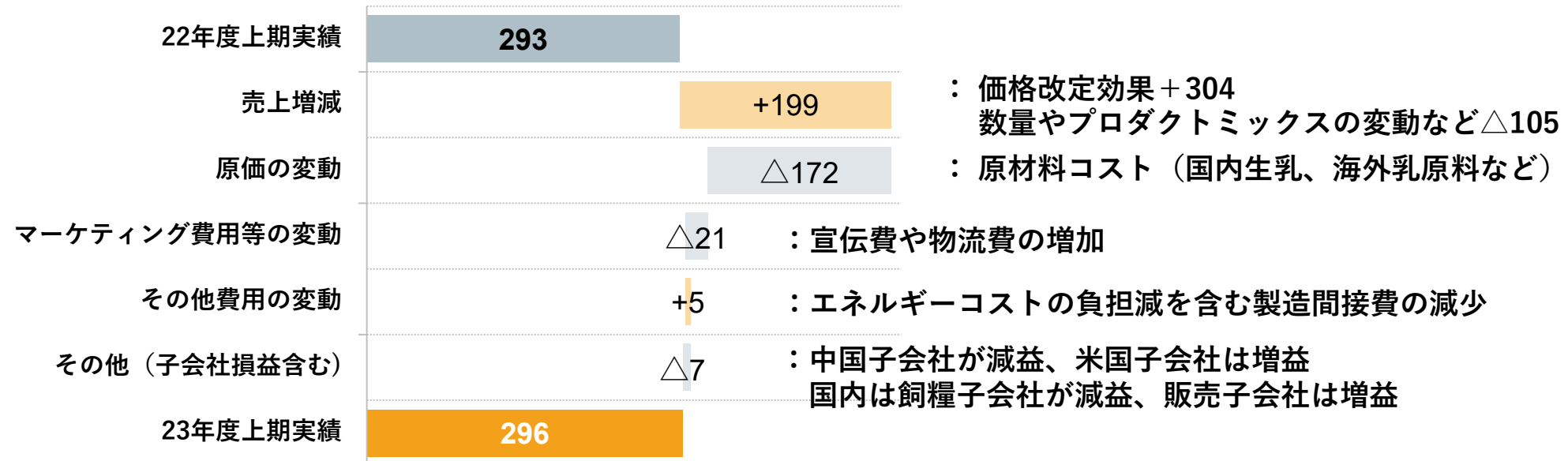
(億円)	22年度 上期実績	23年度 上期実績	23年度		23年度 上期計画
			前年同期比	計画比	
売上高	5,175	5,460	+5.5% +285	+0.4% +20	5,440
うち、海外売上高	567	636	+12.1% +68	△7.9% △54	690
営業利益	431	444	+2.9% +12	+38.9% +124	320
営業利益率	8.3%	8.1%	△0.2pt	+2.3pt	5.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	333	279	△16.4% △54	+39.6% +79	200
E P S	118.52円	100.13円	△18.39円	+28.86円	71.27円

- 売上高・営業利益は食品、医薬品ともに増収増益
- 四半期純利益は大幅減益。持分法による投資損失の計上や税金費用の増加が主な要因
- 計画比では利益は1Qの好調さを維持し、大幅に上回った
- 上期配当を5円増配

## 食品：2023年度 上期決算概要

(億円)	22年度 上期実績	23年度 上期実績		23年度 上期計画	
		前年同期比	計画比		
売上高	4,206	4,454	+5.9% +248	+0.9% +40	4,414
営業利益	293	296	+1.2% +3	+14.6% +37	259

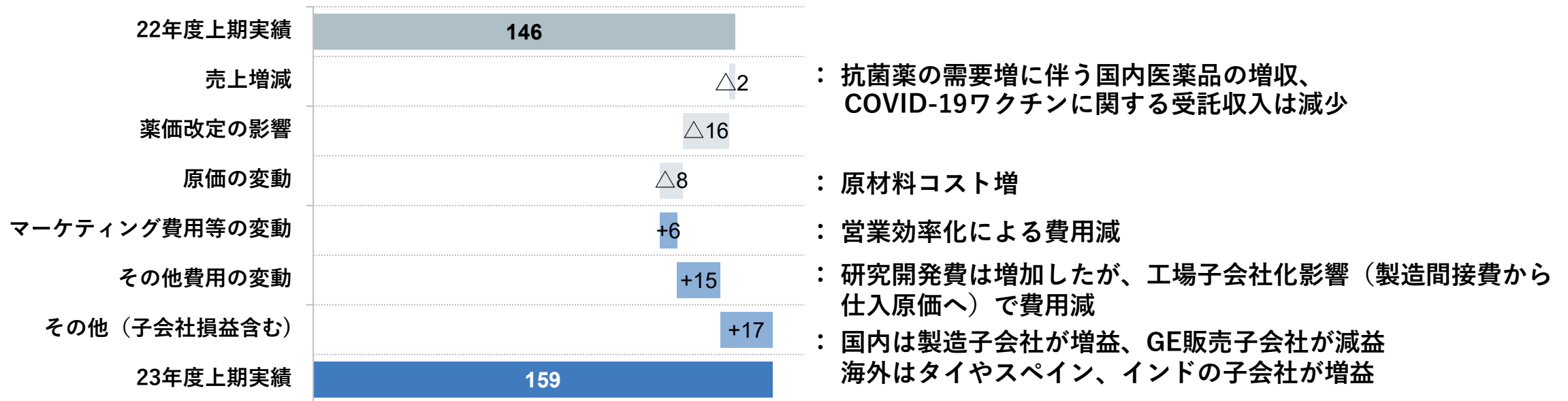
## 営業利益 増減分析



# 医薬品：2023年度 上期決算概要

(億円)	22年度 上期実績	23年度 上期実績		23年度 上期計画	
		前年同期比	計画比		
売上高	971	1,008	+3.8% +36	△2.0% △20	1,029
営業利益	146	159	+8.5% +12	+117.8% +86	73

## 営業利益 増減分析



# 2023年度の位置づけ：次の中期経営計画への助走期間

## 注力する取り組み

- **コストアップへの対応**
  - ✓ 価格改定の定着
  - ✓ マーケティング投資の継続
- **コア事業の戦略転換**
  - ✓ 付加価値追求による売上回復と安定収益の確保
  - ✓ 収益基盤強化のための構造改革に着手
- **次の成長ドライバーへの経営資源投下**
  - ✓ 海外展開、新規ワクチン開発
  - ✓ 医薬品パイプラインの開発加速
  - ✓ 新領域への挑戦、スタートアップやベンチャー企業との取り組み
- **サステナビリティと事業の融合の加速**

## 2. 2023年度 下期・通期見通し



## 2023年度 下期・通期連結見通し：修正あり

(億円)		23年度 上期実績		23年度 下期計画 (11月修正)		23年度 下期計画 (5月当初)		23年度 通期計画 (11月修正)		23年度 通期計画 (5月当初)	
			前年同期比		前年同期比				前期比		
連結	売上高	5,460	+5.5% +285	5,524	+1.4% +78	5,580		10,985	+3.4% +363	11,020	
	営業利益	444	+2.9% +12	355	+10.4% +33	460		800	+6.1% +46	780	
	親会社株主に帰属 する当期純利益	279	△16.4% △54	230	△36.0% △129	310		510	△26.5% △184	510	
食品	売上高	4,454	+5.9% +248	4,456	+0.1% +6	4,456		8,911	+2.9% +254	8,870	
	営業利益	296	+1.2% +3	313	+18.1% +48	301		610	+9.3% +51	560	
医薬品	売上高	1,008	+3.8% +36	1,072	+7.1% +71	1,126		2,081	+5.5% +108	2,155	
	営業利益	159	+8.5% +12	60	△13.8% △9	177		220	+1.3% +2	250	

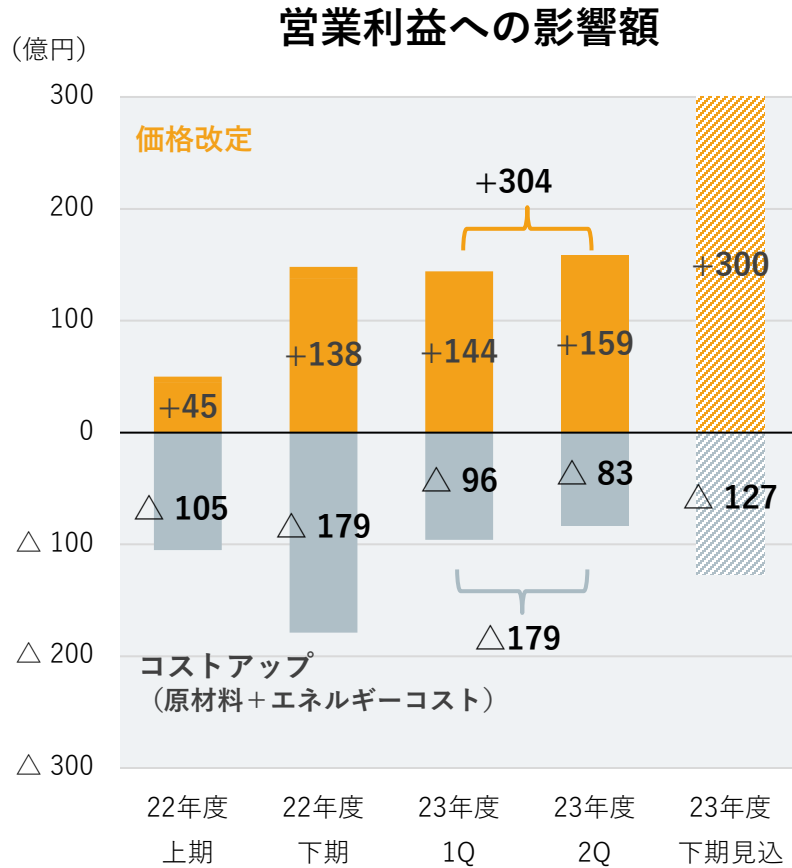
## ● 通期の売上高は減額修正、営業利益は増額修正

- 食品：下期売上高を据え置き。営業利益は当初計画以上の水準を目指す

- 医薬品：下期は売上高・営業利益ともに減額修正。ARCT-154の貢献見込み額を除外した影響などによる

## ● 通期の当期純利益は当初計画を据え置き

# 食品：コストアップへの対応



- 価格改定によりコストアップを吸収
- 付加価値を訴求することで改定後の価格は定着、数量も回復傾向

## 23年度の主な価格改定

23年3月	アイスクリーム	+4-9%
4月	チョコレート・グミ	+5-10%
	ヨーグルト	+4-6%
	プロバイオティクス	+4%
	チーズ	+6-13%
	ザバス (粉末)	+4-5%
	ザバスマルク	+2-7%
5月	粉ミルク	+約8%
	市販流動食	+4-9%
6月	チョコレート・グミ (一部)	+8%
8月	ヨーグルト	+1-3%
	牛乳	+4-11%
10月	チョコレート・グミ	+4-24%
12月	クリーム	+約4%
	バター	+約7%

# 食品：コア事業の売上回復—ヨーグルト・チーズ事業（プロバイオティクス）

## ■ ヨーグルト・チーズ事業

(億円)	上期実績		通期計画 (11月修正)	
		前年同期比		前期比
売上高	1,025	+2.2% +21	2,047	+1.1% +21
営業利益	126	+4.8% +5	259	+7.6% +18



「明治プロビオヨーグルトR-1  
ドリンクタイプ The GOLD」  
(市販用) 希望小売価格：257円



天候による体への負担を算出した  
「胃の負担指数」をウェザーニュースと  
共同発信

## ● R-1

- 体調管理を喚起するプロモーションを強化。価格改定後の物量減少の抑制は奏功
- 6月に宅配で発売した「R-1 the GOLD」を、10月からは市販でも発売。ロイヤルユーザーを育成
- 独自のR-1乳酸菌EPSの機能の認知拡大に取り組む

## ● LG21

- 昨年12月の機能性表示以降、「胃の負担対策」を訴求するプロモーションを展開
- 新規ユーザーを獲得したが、定着に課題

## ● 脂肪対策ヨーグルト

- 昨年10月の発売から堅調に新規ユーザーを獲得
- 今後さらなるユーザー獲得・定着に向けて、管理栄養士推奨を訴求

# 食品：コア事業の売上回復—ヨーグルト・チーズ事業（ヨーグルト）

## ● 明治ブルガリアヨーグルト

- 新製法採用のプレーンタイプがけん引して回復傾向
- 上期のキャンペーンは奏功。下期も50周年に向けてプロモーション強化
- 下期は品目構成を見直し、収益性向上へ
  - ✓ ドリンクタイプの大容量（900g）を終売
  - ✓ パーソナルタイプのラインアップを強化

左：明治ブルガリアヨーグルトLB81プレーン（180g）  
希望小売価格：141円

右：明治ブルガリアのむヨーグルト ベリーミックス  
+カルシウムと鉄分（400g）  
希望小売価格：235円

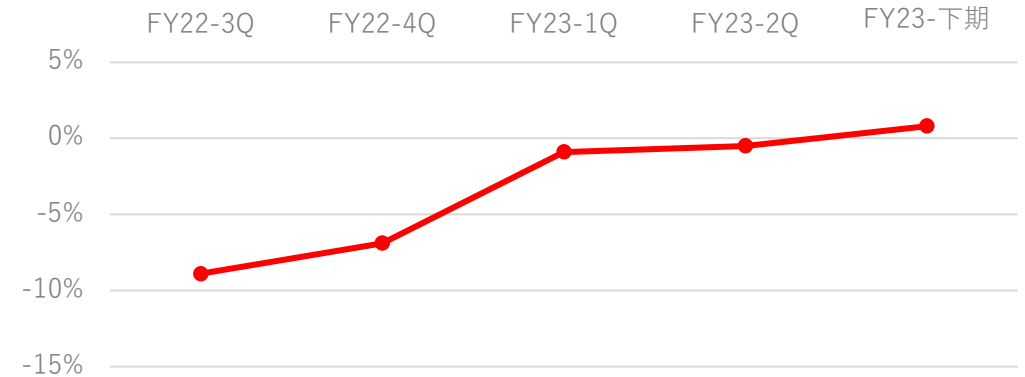


## ● 明治吸収サポート

- 野菜入りのカップタイプを8月に新発売
- 野菜×ヨーグルトの新たな食シーン創造に向けてプロモーションを継続



ヨーグルト売上高の前年同期比  
（プロバイオティクス除く）



## ● ザバスヨーグルト

- カップタイプの品目数拡大で2桁成長
- タンパク量を強化したドリンクタイプを10月に新発売
- 「ザバス」ブランド合同の売り場づくりで認知を拡大



# 食品：コア事業のさらなる成長—チョコレート・グミ事業

## ■ チョコレート・グミ事業

(億円)	上期実績		通期計画 (11月修正)	
	前年 同期比	前期比	前年 同期比	前期比
売上高	447	+2.7% +11	1,051	+2.2% +22
営業利益	33	+4.1% +1	133	+19.3% +21

## ● チョコレート

- 人流回復やインバウンド消費の後押しで、CVSチャネルを中心に伸長
- 大袋チョコやナッツチョコがけん引
- 下期も引き続き商品力の向上とマーケティングの強化に取り組む
  - ✓ 機能性を追加した「チョコレート効果Wプラス」を10月に新発売
  - ✓ 付加価値を追求した商品の新規開発・発売、リニューアル
  - ✓ サステナブルカカオ活動の理解浸透を強化



メイジ・カカオ・サポートを訴求するロゴマーク（左）を付した商品パッケージに順次切り替え、サステナブルカカオの使用割合も表示

明治は、2026年度までに「メイジ・カカオ・サポートを通じ、農家支援を実施した地域で生産されたカカオ豆」の調達比率100%を目指しています。

2022年度調達比率 62%

50%

100%

(表示イメージ)

「チョコレート効果Wプラスカカオ72%」

“善玉コレステロールを増やす”と“血圧が高めの方の血圧を低下させることを助ける”の2つの機能を保有



# 食品：コア事業のさらなる成長—ニュートリション事業

## ■ ニュートリション事業

(億円)	上期実績		通期計画 (11月修正)	
	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比
売上高	648	+8.8% +52	1,251	+7.1% +82
営業利益	92	+6.8% +5	192	+31.8% +46

## ● スポーツプロテイン

- 粉末ソイプロテインは前年並みまで回復
- タンパク量を強化した「ザバスミルク」が好調で新規ユーザーが拡大
- 新たなプロテイン原料「アシッドホエイ」を使用し、プレミアム化とシリーズ展開を強化。WEBプロモーションに注力



## ● 乳幼児ミルク

- 独自技術で差別化した付加価値商品が大幅に伸長。市場占有率を拡大
  - ✓ 5月に液体ミルクをスクリュウ缶に変更
  - ✓ 10月にはらくらくキューブをリニューアルし、大容量タイプも発売
- 9月には育児アプリ「赤ちゃんノート」をローンチ。新たなコミュニケーションツールとして活用



らくらくキューブの形状改良

従来の形状



新たな形状



# 食品：業務用食品事業の拡大—販路拡大とイノベーション力の強化

meijiならではの技術や知見、ブランドを活用  
新たな成長の柱として育成

## 既存品の販路拡大

- 大手CVS商品でのヨーグルト素材使用
- 下期は、50周年を迎えるブルガリアヨーグルトを原料として追加使用

## 新規開発した業務用素材

- 常温で長期保存できる生チョコ  
「瑞練<生シヨコラ>」の開発と拡販  
みずねり
- 業務用素材としてチョコレートの可能性を広げるとともに、その知見や経験を新たな自社品の開発にも活用

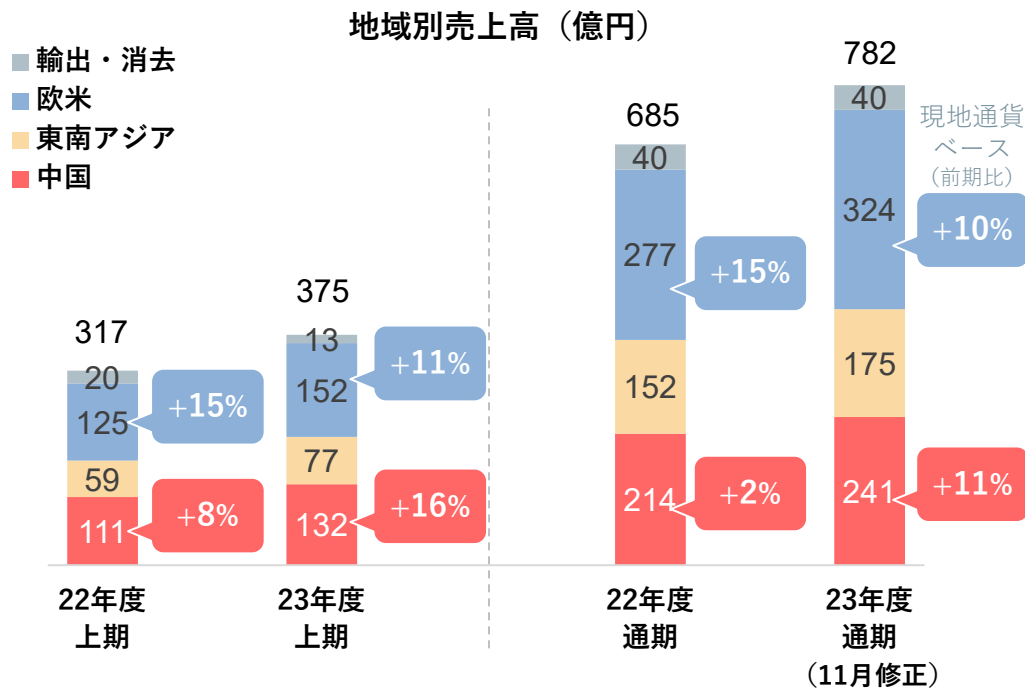


業務用レシピやメニュー開発を行う  
「明治アプリケーションセンター」

# 食品：海外事業の成長加速—欧米

## ■ 海外事業

(億円)	上期実績		通期計画 (11月修正)	
		前年 同期比		前期比
売上高	375	+18.5% +58	782	+14.1% +96
営業利益	△10	— △11	△41	— △31



## ● 米国

- これまでに3回の価格改定を実施
- 付加価値の高い明治ブランドとリーズナブルなスタウファーブランドの両方を持つことを強みに、引き続き安定成長を目指す
- ✓ 明治ブランドのさらなる成長に向けて、主力の「ハローパンダ」の生産能力を拡大
- ✓ スタウファーブランドは、物価高を追い風にニーズ拡大
- SKU数の最適化を進め、収益性を向上

## ● 欧州

- ダノン社ブランドのキューブタイプ粉ミルクは展開国を拡大中

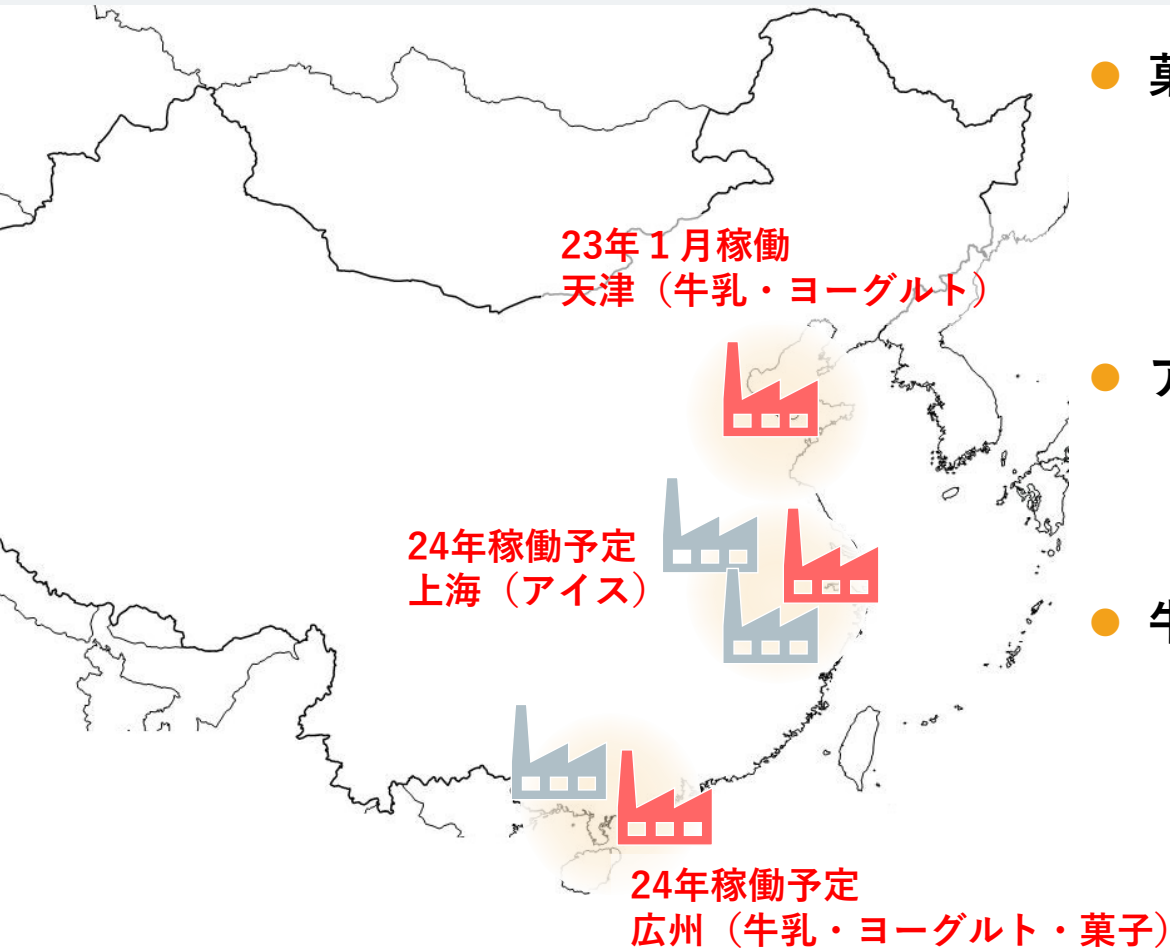
### 現在の展開国

イギリス、フランス、イタリア、エストニア、ラトビア、リトアニア



# 食品：海外事業の成長加速—中国

中～高価格帯をメインにした展開。消費の二極化が進む中で、付加価値訴求路線を継続



## ● 菓子

- 板チョコが好調。パッケージ変更、重点商品として集中した販促・普及が奏功
- 秋冬に向けて新商品を発売、店頭訴求も強化



## ● アイスクリーム

- 現地開発品を中心に好調、価格改定も実施
- 夏場の天候不順や市場在庫の増加が懸念材料



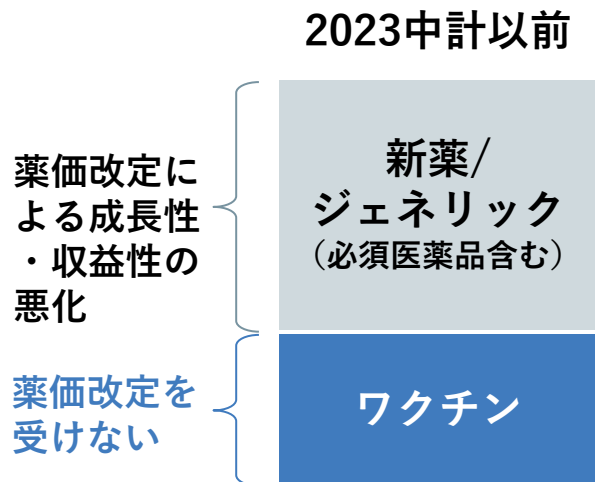
## ● 牛乳・ヨーグルト

- 業務用は計画以上で推移。おいしさや品質の高さが支持され、カフェチェーンを中心に取引拡大
- 市販用は前年クリアも、新規開拓が計画通り進まず
  - ✓ 商品政策・チャネル政策を見直し。現地の人財を活用
  - ✓ 現地の商品開発センターを軸に、独自性・差別性ある商品開発も急ぐ

### 3. 医薬品セグメントの持続的な成長に向けて

# 医薬品：構造改革を推進し、安定した収益基盤を構築

## 医療用医薬品の 収益貢献イメージ



### 2023中計 主な構造改革

- 「選択と集中」で収益性を向上
  - ・ ワクチン事業の強化
  - ・ 新薬の売上拡大
  - ・ ジェネリック事業の構造改革
- アセットライト化で投下資本を縮減
  - ・ 農薬事業、DMバイオ株式の譲渡
  - ・ 動物薬事業の統合
  - ・ 横浜研究所の閉鎖を含む研究開発体制の見直し

### 今後



# 医薬品：新薬による成長の上乗せ

## 得意領域を軸とし、アンメットメディカルニーズを踏まえたラインアップ強化

### ME3208 (ベルモスジル)

- 炎症と線維化を直接抑制できる唯一の慢性移植片対宿主病 (cGVHD) 治療薬 (ROCK2阻害剤)
- 日本・アジア12か国の独占的な開発・販売権を保有
- 米国ではSanofi社が21年8月に「Rezurock®」として発売
- 日本 23年5月 希少疾病用医薬品に指定  
23年6月 国内製造販売承認申請

### 5混ワクチン「クイントバック」

- 全ての有効成分を日本国内で生産
- 23年9月 国内製造販売承認を取得
- 24年度早期に定期接種ワクチンとしての供給を目指す

### OP0595 (ナキュバクタム)

- 薬剤耐性 (AMR) 対策に向けた新規β-ラクタマーゼ阻害剤
- 既存β-ラクタム系抗菌薬との併用でカルバペネマーゼ産生腸内細菌目細菌 (CRE) への有効性に期待
- AMEDのCiCLE事業に採択され、現在、国際共同P3試験が進行中

### ME3183

- 優れた薬理活性と嘔吐回避をコンセプトに自社創製した新規選択的PDE4阻害剤 (乾癬治療薬)
- 米国およびカナダで実施したP2試験では主要評価項目を達成 (23年8月9日リリース)

※パイプラインの詳細はP38-40をご参照ください。

# 医薬品：日本におけるCOVID-19ワクチンの開発状況

開発企業	モダリティ	取り組み状況
1 第一三共 東大医科研	mRNAワクチン	23年8月 成人向けブースター用ワクチン（起源株対応）承認 23年9月 12歳以上向けブースター用ワクチン（オミクロン株XBB.1.5系統対応）承認申請
2 塩野義製薬 感染研/UMNファーマ	組換えタンパクワクチン	22年11月 成人用初回免疫用・ブースター用ワクチン承認申請
3 Meiji Seika ファルマ	mRNAワクチン （レプリコン）	23年4月 成人用初回免疫用ワクチン承認申請 23年6月 成人用ブースター用ワクチン承認申請 23年9月 成人用ブースター用のP3試験（変異株対応ワクチン）開始 （起源株およびオミクロンBA.4-5株対応2価ワクチン）
4 KMバイオロジクス 東大医科研/感染研/基礎研/ Meiji Seika ファルマ	不活化ワクチン	23年10月 小児用P3（発症予防効果検証）試験を準備中 （オミクロン株XBB.1.5系統ワクチン）
5 VLP セラピューティクス	mRNAワクチン （レプリコン）	23年4月 ブースター用のP1/2試験（変異株対応ワクチン）を開始 23年12月 ブースター用のP3試験（変異株対応ワクチン）を開始予定
6 アンジェス 阪大/タカラバイオ	DNAワクチン	22年9月 開発中止

ARCT-154  
ARCT-2301

KD-414

## 医薬品：2つのCOVID-19ワクチンの実用化の意義と可能性

- 小児から大人まで安心して接種できるワクチンを複数開発し、日本における新たなワクチンの選択肢を提供する
- 世界に先駆けて新規sa-mRNA技術※（レプリコン）のワクチン「ARCT-154」の有効性、安全性、及び忍容性を実証し、世界におけるワクチン開発をリードする
- 今後発生しうる変異株に迅速に対応するために、国内において生産体制を構築する
- 次の未知なる感染症に備えた体制づくりに貢献する  
国が進める「他国の事情に左右されずに、国民に着実にワクチンを提供するためのワクチン開発と生産体制強化」に貢献

mRNA医薬・ワクチン製造拠点  
(ARCALIS社・南相馬工場の整備構想)



**感染症領域に特長のある企業グループとして、競争優位性をさらに強固に**

# 参考資料

## 2023年度 上期 連結経営成績

(億円)	23年度 上期実績	前年同期比	主な内容
売上高	5,460	+5.5% +285	— (詳細はP3-5参照)
営業利益	444	+2.9% +12	— (詳細はP3-5参照)
営業外収益	18	△22.9% △5	・持分法による投資利益 (△6) ・為替差益 (+1)
営業外費用	28	+72.1% +11	・持分法による投資損失 (+15)
経常利益	434	△1.1% △4	—
特別利益	77	+13.5% +9	・投資有価証券売却益 (+27) ・関係会社株式売却益 (+16) ・固定資産売却益 (△40)
特別損失	31	+28.3% +6	・関係会社株式売却損 (+5)
税金等調整前 当期純利益	480	△0.5% △2	—
法人税等	176	+31.3% +42	—
非支配株主に 帰属する四半期純利益	24	+68.9% +10	—
親会社株主に帰属 する四半期純利益	279	△16.4% △54	—



## 2023年度 上期 連結財政状態

(億円)	23年9月末 実績	前期末比	主な内容
流動資産	5,380	+14.3% +671	・受取手形及び売掛金 (+414) ・現金及び預金 (+185)
固定資産	6,697	+0.7% +44	・土地 (+81) ・投資有価証券 (+62) ・建設仮勘定 (△101)
資産合計	12,077	+6.3% +715	—
流動負債	3,025	+13.6% +363	・短期借入金 (+199) ・支払手形及び買掛金 (+116) ・未払法人税等 (+46)
固定負債	1,185	△0.1% △1	・長期借入金 (△20) ・退職給付に係る負債 (+6)
負債合計	4,211	+9.4% +362	—
株主資本	6,808	+2.4% +156	・利益剰余金 (+146)
その他の包括利益 累計額	644	+37.8% +176	・為替換算調整勘定 (+127) ・その他有価証券評価差額金 (+45)
非支配株主持分	414	+5.1% +20	—
純資産合計	7,866	+4.7% +353	—
有利子負債	823	+27.9% +179	・短期借入金 (+199)
自己資本比率	61.7%	△1.0pt	—

## 2023年度 上期 連結キャッシュフロー

(億円)	23年度 上期実績	前年同期比	主な内容
営業キャッシュフロー	258	+7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・棚卸資産の増減額 (+114)</li> <li>・仕入債務の増減額 (+90)</li> <li>・法人税等の支払額 (+64)</li> <li>・売上債権の増減額 (△227)</li> <li>・投資有価証券売却損益 (△27)</li> </ul>
投資キャッシュフロー	△153	+106	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有形固定資産の取得による支出 (+86)</li> <li>・連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入 (+35)</li> </ul>
フリーキャッシュフロー	105	+113	—

# 2023年度上期 連結営業利益増減分析

(億円)	連結	食品	医薬品	他
22年度上期実績	431	293	146	△7
売上増減	+197 *1	+199	△2	—
薬価改定の影響	△16	—	△16	—
原価の変動	△180 *2	△172	△8	—
経費等の増減	+5 *3	△16	+21	—
その他（子会社損益含む）	+6	△7	+17	△3
23年度上期実績	444	296	159	△11

\*1： 価格改定効果を含む

\*2： 主な内訳 【食品】 原材料コスト増（国内生乳、海外乳原料など）△172

【医薬品】 原材料コスト増△8

\*3： 主な内訳 【食品】 マーケティング費用等の変動△21、その他経費の変動+5

【医薬品】 研究開発費増△8、マーケティング費用等の変動+6、その他経費の変動+23

## 2023年度通期（修正計画） 連結営業利益増減分析

(億円)	連結	食品	医薬品	他
22年度通期実績	754	558	217	△21
売上増減	+422 *1	+415	+6	—
薬価改定の影響	△34	—	△34	—
原価の変動	△324 *2	△311	△13	—
経費等の増減	△11 *3	△25	+15	—
その他（子会社損益含む）	△7	△28	+29	△8
23年度通期修正計画	800	610	220	△30

\*1： 価格改定効果を含む

\*2： 主な内訳 【食品】 原材料コスト増（国内生乳、海外乳原料など）△311

【医薬品】 原材料コスト増△13

\*3： 主な内訳 【食品】 マーケティング費用等の変動△46、その他経費の変動+21

【医薬品】 研究開発費増△43、マーケティング費用等の変動+0、その他経費の変動+58

## 2023年度計画

(億円)	22年度 通期実績		23年度 通期計画 (11月修正)		23年度 通期計画 (5月期初)	
		前期比		前期比		前期比
売上高	10,621	+4.8% +490	10,985	+3.4% +363	11,020	+3.8% +398
営業利益	754	△18.8% △174	800	+6.1% +46	780	+3.4% +25
営業利益率	7.1%	△2.1 pt	7.3%	+0.2 pt	7.1%	△0.0 pt
親会社株主に帰属する当期純利益	694	△20.7% △180	510	△26.5% △184	510	△26.5% △184
EPS	247.39円	△56.24円	182.89円	△64.5円	181.73円	△65.65円
1株当たり配当金	90円	+5円	95円	+5円	95円	+5円
配当性向	36.4%	+8.4 pt	51.9%	+15.6 pt	52.3%	+15.9 pt
ROE	10.0%	△3.5 pt	7.0%	△3.1 pt	7.0%	△3.0 pt
ROIC	6.3%	△2.1 pt	6.5%	+0.2 pt	6.5%	+0.2 pt
設備投資額	721	△22.5% △209	649	△10.0% △72	628	△12.8% △92
営業CF	850	△33.3% △425	585	△31.2% △265	600	△29.4% △250
フリーCF	482	△51.7% △516	40	△91.7% △442	100	△79.3% △382

## 食品：事業別売上高・営業利益

(億円)		22年度 通期実績	23年度 上期実績	前年 同期比	23年度 下期計画 (11月修正)	前年 同期比	23年度 通期計画 (11月修正)	前期比
ヨーグルト ・チーズ	売上高	2,025	1,025	+2.2% +21	1,021	+0.0% +0	2,047	+1.1% +21
	営業利益	241	126	+4.8% +5	133	+10.4% +12	259	+7.6% +18
ニュートリション	売上高	1,168	648	+8.8% +52	602	+5.2% +30	1,251	+7.1% +82
	営業利益	146	92	+6.8% +5	100	+68.1% +40	192	+31.8% +46
チョコレート ・グミ	売上高	1,028	447	+2.7% +11	603	+1.8% +10	1,051	+2.2% +22
	営業利益	111	33	+4.1% +1	99	+25.5% +20	133	+19.3% +21
牛乳	売上高	715	383	+4.2% +15	369	+6.4% +22	752	+5.2% +37
	営業利益	△25	△11	— △3	△11	— +5	△23	— +1
業務用食品	売上高	711	376	+14.5% +47	417	+8.9% +34	793	+11.5% +81
	営業利益	30	23	+137.4% +13	33	+63.0% +13	57	+87.2% +26

## 食品：事業別売上高・営業利益

		(億円)						
		22年度 通期実績	23年度 上期実績	前年 同期比	23年度 下期計画 (11月修正)	前年 同期比	23年度 通期計画 (11月修正)	前期比
フローズン ・調理食品	売上高	579	338	+5.1% +16	267	+3.9% +10	606	+4.6% +26
	営業利益	32	29	+6.0% +1	9	+90.1% +4	38	+19.1% +6
海外	売上高	685	375	+18.5% +58	406	+10.3% +38	782	+14.1% +96
	営業利益	△9	△10	— △11	△30	— △19	△41	— △31
その他 ・国内子会社	売上高	1,741	858	+2.9% +23	768	△15.3% △138	1,626	△6.6% △114
	営業利益	30	13	△40.4% △9	△20	— △28	△7	— △38

## 食品：2023年度 上期 事業別営業利益 増減分析

(億円)	食品 全体	ヨーグルト・ チーズ	ニュートリ ション	チョコレート・ グミ	牛乳	業務用 食品	フーズン・ 調理食品	海外	その他・ 国内子会社
22年度上期営業利益	293	120	86	32	△8	10	27	0	23
売上増減	+199	+39	+48	+24	+21	+41	+23	+4	△2
原価の変動	△172	△33	△42	△23	△25	△20	△16	△5	△8
経費等の増減	△16	△5	△1	+0	△2	△8	△5	△3	+7
マーケティング費用等 の変動	△21	△7	△1	△3	△3	△2	△6	△3	+4
その他費用の変動 (内、研究開発費)	+5 (△4)	+2	△0	+3	+1	△5	+1	+0	+3
その他 (子会社損益など)	△7	+5	+0	△0	+3	+0	△0	△8	△7
23年度上期営業利益	296	126	92	33	△11	23	29	△10	13



## 食品：2023年度 通期 (修正計画) 事業別営業利益 増減分析

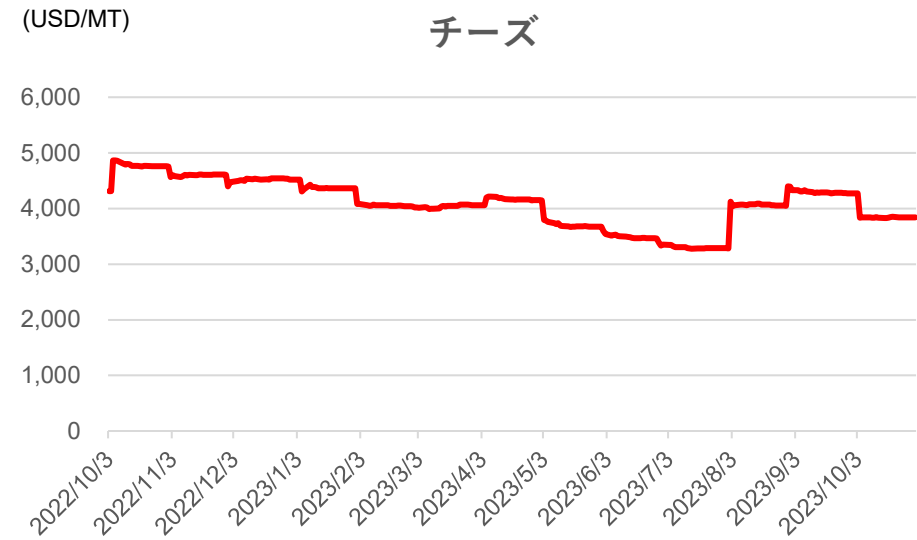
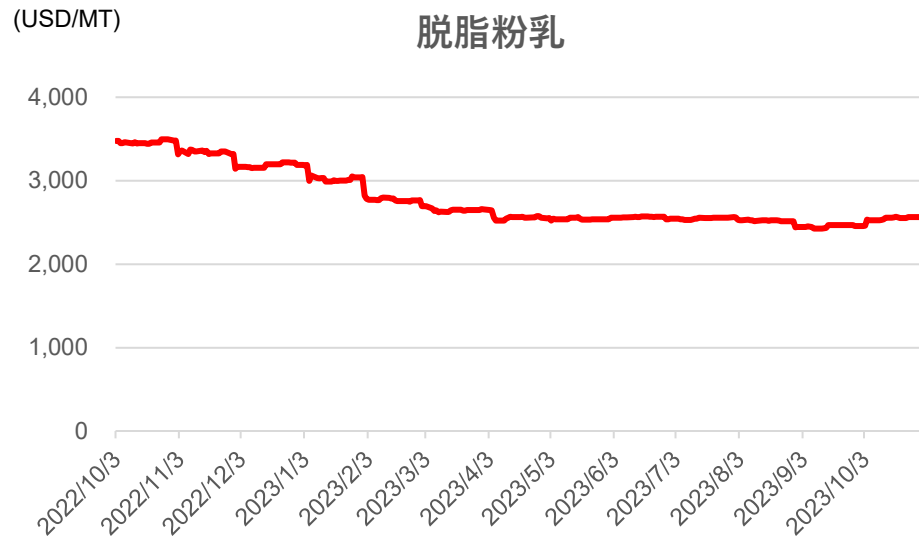
(億円)	食品 全体	ヨーグルト・ チーズ	ニュートリ ション	チョコレート・ ゲミ	牛乳	業務用 食品	フーズン・ 調理食品	海外	その他・ 国内子会社
22年度通期営業利益 (実績)	558	241	146	111	△25	30	32	△9	30
売上増減	+415	+88	+106	+67	+53	+77	+37	+5	△18
原価の変動	△311	△64	△52	△46	△47	△43	△24	△5	△29
経費等の増減	△25	△9	△7	+4	△5	△7	△6	△9	+14
マーケティング費用等 の変動	△46	△13	△7	△4	△8	△2	△7	△10	+5
その他費用の変動 (内、研究開発費)	+21 (△8)	+4	+0	+7	+3	△5	+2	+2	+8
その他 (子会社損益など)	△28	+3	△0	△4	+1	△0	△1	△23	△5
23年度通期営業利益 (11月修正計画)	610	259	192	133	△23	57	38	△41	△7

## 食品：2023年度 主力品の売上動向

(億円)	22年度	23年度	前年 同期比	23年度	前年 同期比	23年度	前期比
	通期実績	上期実績		下期計画 (11月修正)		通期計画 (11月修正)	
ヨーグルト	761	396	△0.7%	365	+0.8%	761	+0.0%
プロバイオティクス ヨーグルト	954	467	+3.4%	506	+0.8%	973	+2.0%
市販チーズ	282	140	+4.1%	146	△0.9%	286	+1.5%
チョコレート	991	419	+5.0%	616	+4.1%	1,036	+4.5%
乳幼児ミルク・流動食	673	356	+6.7%	349	+2.8%	705	+4.8%
スポーツ栄養 (ザバスミルク含む)	452	267	+11.8%	230	+7.5%	496	+9.8%
市販・宅配牛乳	723	387	+3.9%	353	+0.8%	740	+2.4%
市販アイスクリーム	416	282	+10.3%	169	+5.4%	451	+8.4%

※収益認識基準は適用していません

# 主要輸入原料相場の動向



## 医薬品：事業別売上高・営業利益

(億円)		22年度 通期実績	23年度 上期実績	23年度		23年度 通期計画 (11月修正)	前期比
				前年 同期比	下期計画 (11月修正)		
国内医薬品	売上高	1,001	503	+5.8% +27	540	+2.6% +13	1,043 +4.1% +41
	営業利益	101	51	△3.9% △2	31	△34.1% △16	83 △18.0% △18
海外医薬品	売上高	514	260	+4.1% +10	291	+10.6% +27	552 +7.4% +38
	営業利益	77	49	+35.3% +12	20	△50.3% △20	69 △9.7% △7
ヒト用ワクチン	売上高	347	193	+0.4% +0	185	+19.3% +29	378 +8.8% +30
	営業利益	24	53	+10.8% +5	3	— +26	56 +131.0% +32
動物薬	売上高	108	51	△3.4% △1	55	△0.1% △0	106 △1.7% △1
	営業利益	14	4	△45.4% △3	6	△1.0% △0	10 △25.2% △3

# 医薬品：2023年度 上期 事業別営業利益 増減分析

(億円)	医薬品 全体	国内医薬品	海外医薬品	ヒト用 ワクチン	動物薬
22年度上期営業利益	146	54	36	48	7
売上増減	△2	△5	+4	△2	—
薬価改定の影響	△16	△16	—	—	—
原価の変動	△8	△2	△6	+0	—
経費等の増減	+21	+21	△0	△0	—
マーケティング費用等の変動	+6	+7	+0	△1	—
その他費用の変動 (内、研究開発費)	+15 (△8)	+14	△0	+0	—
その他 (子会社損益など)	+17	△0	+14	+7	△3
23年度上期営業利益	159	51	49	53	4

# 医薬品：2023年度 通期（修正計画） 事業別営業利益 増減分析

(億円)	医薬品 全体	国内医薬品	海外医薬品	ヒト用 ワクチン	動物薬
22年度通期営業利益 (実績)	217	101	77	24	14
売上増減	+6	△9	+3	+13	—
薬価改定の影響	△34	△34	—	—	—
原価の変動	△13	△4	△9	+0	—
経費等の増減	+15	+25	△10	△1	—
マーケティング費用等の変動	+0	+6	△3	△2	—
その他費用の変動 (内、研究開発費)	+14 (△43)	+20	△7	+2	—
その他 (子会社損益など)	+29	+4	+9	+20	△3
23年度通期営業利益 (11月修正計画)	220	83	69	56	10

# 医薬品：開発パイプラインー1

	開発コード（一般名）	薬効/作用	予定適応症	開発段階
感染症 領域	OP0595* (ナキユバクタム)	$\beta$ -ラクタマーゼ阻害薬	カルバペネム系抗菌薬に耐性を示す菌株による各種感染症	Phase III（日本・海外）**
新領域	ME3208 (ベルモスジル)	ROCK2阻害剤	慢性移植片対宿主病(cGVHD)治療薬（ROCK 2 阻害剤）	申請（日本・韓国・台湾）
	DMB-3115	バイオ後続品	尋常性乾癬/関節症性乾癬/クローン病 /潰瘍性大腸炎	申請（海外） Phase I（日本）
	HBI-8000 (ツシジノスタット)	ヒストン脱アセチル化酵素（HDAC）阻害剤	切除不能または転移性悪性黒色腫治療薬	Phase III（日本・海外）**
	ME3183*	PDE4阻害剤	乾癬治療薬	Phase II（海外）
	HBI-8000 (ツシジノスタット)	ヒストン脱アセチル化酵素（HDAC）阻害剤	再発・難治性B細胞性非ホジキンリンパ腫治療薬	Phase Ib / II（日本）
ワクチン	KD-370	ワクチン	百日せき菌、ジフテリア菌、破傷風菌、ポリオウイルス、ヘモフィルスインフルエンザ菌b型による感染症の予防	承認（日本）
	ARCT-154	ワクチン	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防（レプリコンワクチン）	申請（日本）
	ARCT-2301	ワクチン	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防（2価レプリコンワクチン：起源株/オミクロン株）	Phase III（日本）

\*自社創製  
\*\*国際共同治験

## 医薬品：開発パイプラインー2

	開発コード（一般名）	薬効/作用	予定適応症	開発段階
ワクチン	KD-414	ワクチン	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防（成人・不活化ワクチン）	Phase III（18～40歳）**（日本）
	KD-414	ワクチン	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防（小児・不活化ワクチン）	Phase III（6か月～11歳）（日本）
	KD-414	ワクチン	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防（小児・不活化ワクチン：オミクロン株）	Phase III（6か月～12歳）（日本）
	KD2-396	ワクチン	百日せき菌、ジフテリア菌、破傷風菌、ポリオウイルス、ヘモフィルスインフルエンザ菌b型、B型肝炎ウイルスによる感染症の予防	Phase II（日本）
	KD-382	ワクチン	デング熱の予防	Phase I（海外）

\*自社創製

\*\*国際共同治験



# 医薬品：開発パイプラインー3

	開発コード	薬効/作用	開発段階
動物用医薬品	ME4137	抗菌性注射剤（牛）	申請（日本）
	ME4137	抗菌性注射剤（豚）	申請（日本）
	KD-412*	ワクチン（牛）	申請（日本）
	MD-22-3002	抗炎症剤（牛、豚、馬）	申請（日本）
	ME4305*	抗菌性製剤（牛）	開発中
	MD-22-1001-1	抗菌性注射剤（牛）	開発中
	ME4406*	飼料添加物	開発中

\*自社創製

# 健康にアイデアを meiji

- 本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定はご自身でご判断をお願いいたします。
- 本資料に記載された業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。
- 本資料には、薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。